

対象年度	令和 5年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート						
事務事業名	配水管更新事業						予算事業名	—	
予 算 科 目	会計	XX	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	水道法
			XX	XX	XX	XXXX	経常経費		
総合計画体系	住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分	主要事業	
	地球環境にやさしいまちづくり								
	安全・安心な水道水の安定供給						担当課係等	水道課 工務係	
事業期間	継続 (平成 9年度～ 年度)								
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】						【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
管路の耐震性の向上を図るとともに、赤水及び漏水の解消を図る。						赤水の苦情が市民から恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである石綿セメント管をはじめとする老朽管を計画的に更新する必要があるため。			
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】						【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】			
石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。						石綿セメント管 鋼管・鋳鉄管・ダクタイル鋳鉄管 水道用硬質塩化ビニル管			
						【事業をとりまく環境の変化】			
						赤水対策も要因の一つであるが、東日本大震災以降、管路の耐震化をいち早く進める必要がある。			
【令和 5年度 事業内容】			【令和 6年度 事業内容】			【令和 7年度 事業内容】			
石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。			石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。			石綿セメント管をはじめとする老朽管を、耐震性を有する配水用ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管 (GX・NS) 等に更新する。			

■事業費

		R03年度	R04年度			
財源内訳	国庫支出金	11,005	24,745			
	県支出金	0	0			
	地方債	43,000	115,000			
	その他の	20,849	29,615			
	一般財源	0	0			
歳入計 (千円)		74,854	169,360			
歳出内訳	節 (番号 + 名称)	金額 (千円)	金額 (千円)			
	12 委託料	0	6,028			
	14 工事請負費	74,854	163,332			
歳出計 (千円) (A)		74,854	169,360			
伸び率 (%)			126.25			
備考	予算書 420ページ					
	第6次結城市総合計画 78ページ					

令和 3年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R03年度	R04年度	R05年度
活動 指標	石綿セメント管更新延長	m	目標	1,940.00	2,300.00	1,500.00
			実績	1,124.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	石綿セメント管	m	目標	24,801.00	23,317.00	21,817.00
			実績	25,617.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	赤水の苦情は解消されつつあるものの、石綿セメント管をはじめとした老朽管を計画的に更新し、耐震化を図る必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手法が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率は年々向上しているが、工事費としては、材料費・労務費・諸経費が高騰しコスト高となっている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率が年々向上しており耐震化も図られているが、進捗状況が思わしくない。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	ある程度進んではいるが、工事費の高騰により、更新率の向上はむずかしい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
配水管更新事業を継続して進めていくことにより、配水管上の漏水発生率が低下し有収率・耐震化率も向上しているが、工事費のコスト高により、進捗状況は思わしくない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
赤字経営とならない程度に本事業を最大限進めていく必要がある。 令和5年度にて現在の国費補助切れとなるため、新たな事業を模索する必要がある。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 水道創設期に整備された水道管がいまだに多く残存しており、日常的な赤水や漏水の原因となっている状況である。このため、本事業を最優先事業に位置付け、痛みが特に激しい石綿セメント管の更新を引き続き行うとともに補助対象となる鋼管等も実施していく。	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	